

心身のセルフケアのための素材開発と実用化

—健康長寿を目指して

オーガナイザー

荒井雅吉 (阪大院薬)
関山敦生 (阪大院薬)
笠原恵美子 (阪大院薬)

先進諸国の急速な超高齢化により、健康寿命の延伸がグローバルな課題となっている。この対策として、心身(こころと身体)のセルフケアによる健康維持・増進や未病状態の改善は、健康寿命の延伸ばかりかQOL(生活の質)の向上、社会保障費の削減、労働人口の確保などが期待できる優れた解決アプローチであり、実現が社会から強く要請されている。

一方、天然物や天然由来成分、食素材などは、セルフケアツールの素材として期待されているが、それらから安

全で有効なセルフケアツールが継続的に提供されるようになるためには、素材選択、機能性、分析、安全性の保証、果ては人体の複雑さや多様性にまで及ぶ新たな科学的検討が必要である。

本シンポジウムでは、天然物や天然由来成分の食品、化粧品、機能性成分等としての活用のフロントラインまた現状の課題などについて、4人のシンポジストに、規制科学、分析科学、食と健康、健康のための未利用食素材の活用という観点からご講演いただく。そして、天然物や天然由来成分を、健康長寿のための素材として開発および社会導出を進めていくに際し必要とされる研究(また研究者)のあり方について議論したい。

(荒井雅吉)

医薬品評価法のヒト外挿性向上へのアプローチ

オーガナイザー

山崎大樹(国立衛研)
石田誠一(崇城大院工)

創薬において、非臨床試験段階の薬物動態試験や安全性薬理試験では、医薬品のヒトでの振る舞いを高い精度で予測することは重要な課題の一つである。医薬品の体内動態や毒性/安全性を考慮する上で、細胞等を用いたin vitro実験結果に基づいてin vivo個体レベル、特にヒトでの薬物の挙動を定量的に予測することが試みられており、ヒト由来細胞の利用やin silico予測手

法開発によってヒト予測性は向上しつつある。

今後、さらなる予測精度・信頼性向上のためには、in vitro to in vivo extrapolation (I V I V E) モデルの構築や生体環境を模倣した培養系(microphysiological system: M P S)による評価系の高度化が必要である。

そこで本シンポジウムでは、医薬品評価法のヒト外挿性向上へのアプローチを独自の視点で進めている研究者に最新の手法とその研究成果を概説していただく。

(山崎大樹)

光を用いた次世代Photo Bio Medicine

オーガナイザー

山田勇磨(北大院薬)
須藤雄気(岡山大院医歯薬)

本シンポジウムは、「光と生命現象(光をくすりへ!)」に関連した研究分野の融合・活性化を目的とし、光機能性分子の源となる光化学に関する研究領域や、光機能性分子を標的臓器・細胞へ送達し(体内動態制御)、さらに細胞内局在を制御する(細胞内動態制御)送達技術に関する研究領域の研究者による発表と議論の場を設ける。送達技術の研究を専門とする北海道

大学大学院薬学研究院の山田勇磨、光化学の研究を専門とする岡山大学学術研究院医歯薬学域(薬学系)の須藤雄気がオーガナイザーを務め、本分野に関連する新進気鋭の研究者との議論の場を提供する。

本シンポジウムでは、薬学、理学、工学、医学など多彩な専門分野の先生が一堂に会したシンポジウムであり、活発な議論がなされると期待している。本シンポジウムが、光を用いた次世代Photo Bio Medicineの一助となることを祈念する。

(山田勇磨)

RNA疾患のメカニズムと

創薬に向けたRNA操作

オーガナイザー

今西未来(京大化研)
築地仁美(愛知学院大薬)

近年、異常なリピートRNA配列が神経変性疾患の原因となることや、RNAの化学修飾やプロセシングの異常が癌を含む様々な疾患に関連することが明らかになってきたことから、RNAは重要な創薬標的として位置付けられている。しかし、RNAリピート配列の異常伸長が根本原因となる神経変性疾患に対して未だ有効な治療法が存在しないなど、薬学研究においては、RNA疾患のメカニズムの全容解明と

RNAを操作する技術開発の両輪が急務となっている。

本シンポジウムでは、異常なリピートRNA配列に起因する神経変性疾患の発症機構の解析および治療薬開発に関して、神経科学から化学まで、異なる観点からのアプローチを紹介する。

また、蛋白質化学や核酸化学的アプローチを利用したRNA修飾制御やRNA編集制御など、核酸の構造や配列特異的なRNAの操作法に関する最新の知見を紹介し、RNA疾患の発症機構とその制御に向けた創薬基礎研究について多角的に議論したい。

(今西未来)

医薬品開発の国際競争力向上のための

国内製薬企業水平連携

オーガナイザー

川上巨作(物材機構)
池田幸弘(武田薬品)
橋塚真彦(沢井製薬)

近年の医薬品開発においては抗体、核酸、細胞など創薬モダリティが多様化しており、海外メガファーマより企業規模が大きく劣る国内製薬企業は開発競争において苦戦を強いられている。そのような背景を踏まえ、2021年に国立研究開発法人物質・材料研究機構と国内製薬企業11社(現在は12社)で医薬品化合物の物性評価と製剤開

発に関わるCenter of Excellence (COE)を立ち上げた。その活動中心は参加企業による6件の共同研究であり、バイオ医薬品開発に関わるテーマを中心に、物性評価・製剤開発の基礎技術力の向上、評価技術のハーモナイゼーション、さらにはその世界標準化を見据えて活動を進めている。

本シンポジウムでは、現状の国内企業の問題解決に対するCOEの活動理念を説明した後、抗体医薬、核酸医薬、および低分子医薬の物性評価・製剤開発に関わる代表的な研究成果を紹介する。

(川上巨作)

創薬研究への応用を目指した

in vitro腸・肝臓器モデルの開発

—生体模倣システム・オルガノイド研究の最前線

オーガナイザー

根来亮介(立命館大薬)
出口清香(京大CiRA)

医薬品候補化合物の有効性や毒性を非臨床試験の段階で予測できるin vitroモデルは極めて有用である。しかし、従来のセルラインでは、その予測性が低いことが課題となっている。近年、ヒト人工多能性幹細胞(iPS細胞)、オルガノイド、ゲノム編集技術などのブレイクスルーにより、ヒトin vitroモデルの進化は目まぐるしい。さらに、生体模倣システム(Microphysiological systems: M P S)

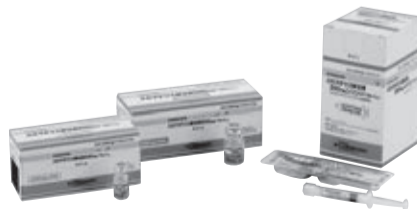
の登場により、従来のプラスチックプレートでは困難であった生体を模倣した複数種類の細胞培養(臓器チップ技術)ができるようになってきた。そのため、M P Sに高機能な細胞を搭載した臓器チップが今後の非臨床試験モデルの新たなスタンダードになるのか注目されている。

本シンポジウムでは、創薬研究において重要な腸管や肝臓等に焦点を当て、オルガノイド研究、臓器チップの最新の研究成果および、M P Sに搭載するための細胞開発等に関して、若手研究者中心に講演する。

(根来亮介)

発売準備中

薬価基準未収載



筋弛緩回復剤 スガマデクスナトリウム注射液

スガマデクス静注液200mg「マルイシ」

Sugammadex Intravenous Solution 200mg "Maruishi"

処方箋医薬品(注意-医師等の処方箋により使用すること)

スガマデクス静注液500mg「マルイシ」

Sugammadex Intravenous Solution 500mg "Maruishi"

処方箋医薬品(注意-医師等の処方箋により使用すること)

スガマデクス静注液200mgシリンジ「マルイシ」

Sugammadex Intravenous Solution 200mg Syringe "Maruishi"

先発医薬品: プリディオナ® 静注 200mg・500mg

効能又は効果、用法及び用量、禁忌を含む注意事項等情報については、電子添文をご参照ください。

丸石製薬株式会社
大阪市鶴見区今津中2-4-2

製品情報お問い合わせ先
学術情報部 TEL: 0120-014-561
販売情報提供活動に関するご意見
kantokubumon@maruishi-pharm.co.jp

2024年2月作成

みなさん!
感動
していますか?

人間学講座 感動と笑い

~そこまでやるか~

[著者] 中井宏次(薬家さく藏)

笑って
いますか?



「NPO法人健康笑い塾®」を設立し、全国に「笑い」の重要性を届けている著者が、これからの時代に必要な「人間力」とは何か、人間力を発揮するには「感動と笑い」がいかに大切かを説いています。

目次

- はじめに 「感動と笑い」は同じである
- 「実践」 ところを「ご機嫌」にする朝の笑顔体操
- I 「感動」とは
- 1. 感動とコミュニケーション
- 2. 人は何に感動するのか
- 3. 感動力を磨く
- 4. 幸せ感(感謝して生きる)
- 5. おもてなしと感動
- II 「笑い」とは
- 1. 笑いコミュニケーション
- 2. 笑い力(ユーモア)を磨く
- 3. 大阪商人と笑顔
- 4. 自分にニックネーム(芸名)をつける

四六判/145頁/1,540円
(本体1,400円+税)

薬事日報社

書籍の詳細・ご注文はURLまたはQRコードからオンラインショップへ
⇒ <https://yakuji-shop.jp/>